

# 地域の力生かし視野広げる



千葉県では県立高校を対象に、地域の企業や大学など「地域の力」を活用して実践的なキャリア教育や学び直しに力を入れる「地域連携アクティブスクール」という独自の制度がある。指定を受け、今年で7年目を迎えた県立流山北高校(流山市)では、地元で就職した卒業生がボランティアで授業に携わる。

## 千葉県立流山北高校



グループワークの途中、生徒の意見に耳を傾ける講師の赤沢健児さん(中央)。この学校の卒業生だ。千葉県流山市の県立流山北高校で16日(画像の一部を加工しています)

「高齢者は何に不安を感じているだろう」。講師の呼びかけに、3年生の生徒9人はグループに分かれて話し合いを始めた。ある班は「体が不自由になって家族に迷惑をかけることや、孤独になってしまふこと」を挙げた。別の班

は「スーパーの有人レジがなくなると、自動精算機の使い方が分からないという新しい悩みもある」と指摘した。6月16日にあった選択科目「インターンシップ(保健実習)」の授業。講師は近くの介護老人保健施設に勤める介護福祉

士の赤沢健児さん(38)。同校のOBだ。「母校に貢献したい」と5年前からゲストティーチャーとして、同僚の職員と協力してこの科目の授業を担当している。

その思いは生徒に届いている。授業をきっかけに介護職を志すようになった横川礼子さんは「介護に関する知識が身についただけでなく、道で困っている高齢者に声をかけられるようになるなど自信もついた」という。

中学校の学習内容の学び直しにも地域の力が生かされている。隣接する野田市にある東京理科大野田キャンパスの学生が1年生の学び直しの授業で個別指導を担ったり、外国にルーツがある生徒に日本語を教えたり……。放課後に勉強を教えに来てくれる高齢者もいる。

地域連携アクティブスクール 不登校や勉強が苦手など中学校で十分に力を発揮できなかったものの、高校で頑張りたいという意欲を持つ生徒らを自立した社会人に育てることを目標に掲げる。「地域の教育力」を授業などに取り入れている。入学者選抜は、国数英3教科の学力検査や作文、面接などで人間性や学ぶ意欲を重視する。指定校は現在、泉、天羽(2012年度～)、船橋古和釜、流山北(15年度～)の4校。

「認知症の祖母をサポートする知識を得たい」と語る三好穂香さんは将来動物に関わる職を志望している。「お年寄りも来やすい動物園にするにはどんな工夫が必要だろうと考えるようになった。地域の方と関わり、視野が広がった」と話す。

同校は卒業後の進路として例年約4割の生徒が就職を選ぶ。2年時に全員がキャリア学習として、11月に3日間、インターンシップ(就業体験)に参加する。協力先は製造業やサービス業など約120カ所に上る。

【千脇康平、写真も】